



矯正治療はいつから始めたらいいの？



受け口（下顎前突）が気になる方へ

■ 小学校低学年の子供さんなら最初の永久歯（第1大臼歯）が生え、前歯が生え変わってくる頃です。いろいろ歯並びの気になるところが出てくる時期でしょう。高学年になると悪いところがもっとはっきりしてきます。悪い歯並びにもいろいろあって、受け口、出っ歯、乱ぐい歯などがありますが、ここでは受け口（下顎前突）について少し詳しくお話ししましょう。

■ 受け口は、患者さんによってかなり異なります。受け口の原因はおまかには2つあって、歯が原因の場合（軽症）と、顎の骨自体に原因がある場合（治療が難しい）があります。歯が原因の場合は、その歯を良い位置にまで動かしてやります。顎の骨に原因がある場合、上顎が小さくて受け口になっている症例には上顎の成長を促進するような治療を行います。下顎が大きい症例には、下顎の成長を抑制するような治療を行います。顎の骨の成長を利用した治療に適した時期は、成長期である小学校低学年～高学年ぐらいとされています。

■ 小学校低学年～高学年ぐらいの時期に治療を開始しておくと、将来的に抜歯せずに済む可能性を高めることができます。抜歯を最小限に抑える予防処置を行なうことができます。

■ このように、矯正治療には、成長期にしかできない治療があります。実際にすぐ治療を開始するかどうかは、精密検査の結果を見て判断します。あの時始めておけばよかった…ということにならないために、歯並びで気になるところがあれば、お気軽にご相談下さい。

山口歯科医院

ホームページ <http://www.geocities.jp/yamaguchishika/>

